

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経済学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)―(専門)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. GPA (Grade Point Average) の実質化 (例. 課程修了認定、奨学金推薦、および研究科進学、などの要件) により、学生の経済学専門能力の水準を引き上げる。	→卒業時におけるGPA。GPAに基づく奨学金獲得者数や研究科への進学者数。	C	B	C	C	B
2. ERE (Economics Record Examination: 経済学検定試験) や日経TESTによる経済学専門能力の単位認定をする。	→ERE (Economics Record Examination: 経済学検定試験) や日経TESTの受験者数とその成績(平均点)。	C	C	C	C	C
3. ゼミナール(基礎演習や研究演習)活動を報告、公表する。	→HPでのゼミナール活動に関する報告の公表、更新。および、アクセス数。	B	B	B	B	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 経済学部ではGPAによる上位10%顕彰を実施し、掲示による表彰を行っている。 ただしGPA制度による奨学金の取り組みには至っていない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 単位数上限が24単位より30単位に引き上げられるため、一層の単位修得は可能となるが、そのほかの恩恵は特になく、掲示のみである。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 早期卒業制度を利用して大学院に進学する場合にはGPAによる基準が設けられることになり、入学者には奨学金が該当することにより、この分野での目的は達成されている。	☆
		その他	☆

目標2	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか ERE(Economics Record Examination: 経済学検定試験)や日経TESTによる経済学専門能力の単位認定は決定していない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 選択必修科目である経済基礎科目の代替としての単位認定の必要性が果たしてあるのかについてが議論され、その結果継続審議となった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か ERE(Economics Record Examination: 経済学検定試験)や日経TESTの単位認定に関する継続審議。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部広報委員会の主導により、ゼミナール活動をホームページやFacebookページで紹介している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か その情報量を増やす方策として、ゼミ毎に広報委員を置いたり2年生が「研究演習ゼミ選択」をする時期に各ゼミの情報をホームページで提供するようにしている。研究演習入門ゼミ選択時においてもホームページの紹介内容が参考とされている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か ゼミ毎の広報委員の積極的利用やゼミ指導教員から逐次情報を吸い上げる手段を検討する。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	